

平成29年度 学校評価 『前期・後期の比較とまとめ』

項目	■ 色 教師 アンケート項目 ■ 色 生徒 アンケート項目 ■ 色 保護者 アンケート項目		■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない		肯定 否定 割合		総合 評価	
	番号	具体的な評価内容	自己評価割合 (%)		肯定 %	否定 %		
I 教育目標について	①	学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。	85	15	100	0	A	
			78	22	100	0	A	
	②	若草中学校は、常にP→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動にとりこんでいる。	45	48	6	94	6	B
			47	50	3	97	3	B
	③	目指す生徒像 「よく学び、工夫する生徒」を育成している。	45	55	3	100	0	B
			53	44	3	97	3	A
	④	「心豊かで、助け合う生徒」を育成している。	61	39	0	100	0	A
			59	38	0	97	0	A
	⑤	「健康で、たくましい生徒」を育成している。	52	48	0	100	0	A
			53	44	0	97	0	A
⑥	「意欲を持ち、やり抜く生徒」を育成している。	42	58	0	100	0	B	
		50	47	3	97	3	B	
考察	<p>学校教育目標は教育の全体像を示しており、本年度の教育指導の重点はグランドデザインに示されている。そこには本年度重点的に取り組む内容が示されているが、より具体的な内容は、教師一人一人が指導重点をかみ砕いて理解し、具体的な活動に落とし込んでいくことが求められる。より細かな活動が示されないのは、そこには教師の自主性と個性を発揮してもらいたいからに他ならない。したがって、教育目標の総括をする場合には、教師一人一人が自分の教育活動を振り返り、職員会議や校内研究等で示された内容を責任もってやり抜いたかどうか、それによって生徒がどう成長したかを評価することが必要である。ここで今年1年間の生徒の様子を見るに、非常に成長した姿を感じることが出来る。これは先生方がそれぞれ教育活動に邁進したからに他ならない。</p>							
改善	<p>・常にPDCAサイクルを意識した教育活動が展開されるよう、計画・実行・評価・改善を様々な活動において行う。もちろん現状も行われているが、今後もより良いものを求める風を職員全体で醸成していきたい。</p>							
意見	<p>・個人差のある生徒を、指導することは大変難しいが、確実にPDCAをまわす努力がなされており、素晴らしい教育活動が見えます。 ・いずれの項目においても、素晴らしい自己評価となっていますが、ここで注意すべきことは、自主性や個性ももちろん大切な事ですが、過度な尊重が結果として自己満足に陥ることに留意する必要があると思います。 ・これからも教育目標に対して、教師、生徒との信頼関係を大切にしていければ良いと思います。 ・先生方が努力されていることは、平日頃の生徒の様子を見ればわかります。とても素直で礼儀正しい生徒が多く、あいさつをしても爽やかに返してくれます。これからもぜひ素晴らしい中学校を築き上げてください。 ・評価が高いのは、教師が常に意識を高く持ち、努力されている結果だと思えます。</p>							
II 校務分掌について	①	職務内容を十分理解し、責任を持って仕事にあたっている。	76	21	3	97	3	A
			66	31	0	97	0	A
	②	自分の分掌と他の人の分掌との関連を考え、相互に連絡・協調している。	52	45	3	97	3	A
			41	50	0	91	0	B
	③	分掌の達成状況、改善点などを管理職に「報告、連絡、相談、確認」している。	48	48	3	97	3	B
			53	44	3	97	3	A
	④	管理場所の安全点検を行い、常に適切な安全管理に努めている。	73	27	0	100	0	A
			63	34	0	97	0	A
	⑤	職員会議や校内研究会に積極的に参加し、決定事項を実践している。	52	45	3	97	3	A
			41	56	0	97	0	B
考察	<p>校務分掌は、学校全体がスムーズに活動するために欠かすことのできない、各自の役割分担である。多くの活動が過不足なく実施されていることは、先生方が校務分掌に責任もって取り組んでいるからに他ならない。しかしながら多人数の職場であるため、ややもすると細部にまで手が回らない、あるいは見落とすことも考えられる。それをできる限りなくすための「報告、連絡、相談、確認」であるが、それが十分に行われているという評価は素晴らしい。一方、相互の連絡・協調や、決定事項の実践についての評価が下がったことは、しっかりと反省しなければならない。様々な活動を行っている、学校においては誰が分担なのか明確にならないグレーゾーンが必ずある。その時こそ、より一層に職員間の“ほうれんそう”が必要である。</p>							
改善	<p>・すべての活動において大切なことは、PDCAサイクルをしっかりと実践することである。特にCA（評価・改善）はより良い活動にしていけるための非常に大切な振り返りである。今後とも全員で活動を振り返り、課題を克服すべく取り組みを行いたい。</p>							
こ	<p>・多忙な時こそ「報・連・相」が大事であるが、前期より後期が改善されており、努力が伺える。パソコンのメールも共有ファイルなど積極的に活用してください。 ・いずれも高評価となっていますが、今後とも全教職員が、職員会議のあらゆる機会をとらえて情報交換を行い、チーム若中の一員という共通認識の下、さらなる高みを目指していただきたい。</p>							

意見	<ul style="list-style-type: none"> 先生方が学校を本当に良くしようと思っていることが私には伝わってきます。無理だけではありません、改善に取り組んでくれば良いと思います。 働き方改革が叫ばれる昨今、学校としてどのように業務改善していくかは重要な問題だと思います。先生方が余裕を持って働ける職場づくりを頑張ってください。 「報・連・相」の評価が高いことは素晴らしいことだと思います。 	
①	基礎・基本の定着を図る授業を行っている。	
生11	先生方は、わかりやすい授業をしていると思いますか。	
保11	先生方は、わかりやすい授業に努めていると思いますか。	
考察	<p>総合的な判定は、教師も生徒も「A」となっており、高いレベルで基礎・基本が定着する授業が行われていることがわかる。特に生徒の後期評価の伸びは素晴らしい、これは先生方の努力の成果であると言える。しかし、8～9%の生徒が否定的であり、数にすると30人以上が不満を持っていることとなる。この生徒に視点を当て、1時間の授業の中で全員が参加し、全員が何かしらの達成感ある授業を仕組むことを目指すことが、我々教師の目標とならなければならない授業の姿である。レベルは高いが、是非挑戦し、絶え間ない授業改善に取り組んでいきたい。</p> <p>一方、保護者の評価は受け止め方が難しい。なぜなら直接授業を見る機会が非常に少なく、その中での評価あるいは生徒からの口伝えの評価だからである。しかしまだまだ十分でないと考えている保護者が相当数いるということを肝に銘じ、誰からも評価される授業づくりに取り組んでいきたい。</p>	
改善	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合い」が定着してきており、それによる授業への意欲や集中力は非常に高まっている。今後さらに校内研究を充実させ、「ジャンプ課題」「生徒のつぶやきの拾い」を改善させていきたい。 	
②	生徒の思考力・判断力・表現力、学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めている。	
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。	
保13	先生方は、お父さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。	
考察	<p>積極的に「はい」と言えない教師評価がすべてを物語っている。というのも、授業改善は「言うは易く行うは難し」で、そのためには気力と労力が必要となる。しかし、多くの教師が「学び合い」についての手こたえを感じていることも事実である。得られた良いイメージを心の糧として、さらに改善を加えていくことが求められるだろう。生徒の評価は教師よりも高い。教師は謙遜気味に自己評価をしているが、生徒はそのような教師の努力を感じとっている。このような生徒のために努力を続けたい。</p> <p>また保護者になるが、これも上記の評価と同じく、判断する材料が乏しく判断が難しい。しかし生徒のために行う努力は、まず生徒に伝わり、そして必ずや保護者にも伝わる。まず、生徒のための授業改善に全力を挙げたい。</p>	
改善	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間でなくとも、新たな教材教具の開発やICTの活用など、チャレンジを積み重ねていきたい。 	
③	研究主題を意識した「学び合い」のある授業を実践している。	
生12	先生方は、一人一人の考えを大切に、学び合いのある授業を進めていると思いますか。	
保12	先生方は、一人一人の考えを大切に、学び合いのある授業を進めていると思いますか。	
考察	<p>「学び合い」授業は難しい。形だけ真似ても深い思考にはならないことも多い。また課題の難易度によっても学び合いは成立しないこともある。いかに「深く考える」ための授業を仕組むかが大きなポイントであり、ここに教師の不断の努力と、常に学び続ける姿勢が求められている。一方、生徒にとっての学び合いは、困難な課題に直面しても決して一人にならず、仲間の支えと言う安心感の中で授業が展開され、よりよい関係性が醸成されるものとなる。このことは授業のみならず、学校生活における円滑な人間関係につながっており、このことがすべての活動において協力、協働する姿となっている。今の生徒たちを見てみると、授業づくりは学校づくりであることを再認識させられる。</p>	
改善	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究を中心とした「学び合い」授業の取り組みを継続させる。また、お互いの授業を見あい、認め励ましながらより良い授業になるよう改善を行う。 	
④	少人数グループや習熟度別授業の実施、また、発展的な内容を取り入れるなど、個に応じた指導を行っている。	
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。	
保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていると思いますか。	
改善	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いのむすかしさは「課題の設定」にある。すべての生徒に同じ難易度の課題を与えることが良い場合もあれば、理解力に応じて何段階かの課題を与えなければならないこともある。理解の早い生徒に与える「発展課題」もあれば、ゆっくり理解する生徒用 	

考察	<p>「基礎課題」もある。これを1時間の授業にデザインしなくてはならないので、なかなか思うようにならない。学び合いを理解すればするほど生じる壁である。それが教師評価が日となった理由であろう。しかし多くの生徒は学び合い学習に好感を持っている。それは授業の雰囲気を見れば一目瞭然である。このような生徒のために、教師として努力を続けていきたい。</p>														
改善	<p>・学び合いは、良い授業を見て、自分でやってみて、改善して、の繰り返しである。教師同士が校内で学び合い、他校の授業を見て学び、研修で学ぶ。そのような機会を増やしていきたい。</p>														
⑤	<table border="1"> <tr> <td>39</td> <td>61</td> <td>100</td> <td>O</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>56</td> <td>44</td> <td>100</td> <td>O</td> <td>A</td> </tr> </table>	39	61	100	O	B	56	44	100	O	A				
39	61	100	O	B											
56	44	100	O	A											
生14	<p>先生方は、いろいろな場面で、あなたが努力したことを認めてくれますか。</p> <table border="1"> <tr> <td>56</td> <td>34</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>90</td> <td>10</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>53</td> <td>34</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>88</td> <td>12</td> <td>A</td> </tr> </table>	56	34	8	2	90	10	A	53	34	9	3	88	12	A
56	34	8	2	90	10	A									
53	34	9	3	88	12	A									
保14	<p>先生方は、お子さんの努力したことを認めてくれて、さまざまな面から評価していると思いますか。</p> <table border="1"> <tr> <td>34</td> <td>50</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>84</td> <td>16</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>36</td> <td>53</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>89</td> <td>11</td> <td>B</td> </tr> </table>	34	50	12	4	84	16	B	36	53	8	3	89	11	B
34	50	12	4	84	16	B									
36	53	8	3	89	11	B									
考察	<p>・ここでいう評価は、授業であったり生活の中であったり、そして学園祭などの活動であったりと、様々な意味合いが含まれている。もちろん生徒にとっても、単なる授業の評価だけでなく、有形無形の様々な評価が行われ、それが意欲につながっていることは、そのA判定の総合評価が物語っている。生徒にとって、“認められること” “評価されること” は次につながる大切な教育活動であるため、今後も意欲の喚起につながる評価を心掛けたい。 保護者評価が生徒評価と比較して高くないことは、例えば形として残る評価（通信表や学年・学級通信等）は保護者の目に留まりやすいが、言葉でなされる評価は、その全てが保護者に伝わり切らないことによるものと考えられる。 しかし我々は、生徒・保護者共に“適切に評価されていない”と感じている割合が1割強あることをしっかりと受け止め、常によりよい評価を目指して改善を続けていかなければならない。</p>														
改善	<p>・“認めること” “励ますこと” は評価の基本である。どのような生徒であっても必ず承認欲求を持っているため、良いところを見つけて伸ばすことを評価の中心に据え、生徒の意欲喚起につながる評価を今後工夫・改善していく。</p>														
⑥	<table border="1"> <tr> <td>29</td> <td>55</td> <td>13</td> <td>3</td> <td>84</td> <td>16</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>44</td> <td>50</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>94</td> <td>3</td> <td>B</td> </tr> </table>	29	55	13	3	84	16	B	44	50	3	3	94	3	B
29	55	13	3	84	16	B									
44	50	3	3	94	3	B									
考察	<p>・進路指導は進学指導ではない。つまり、一人の生徒の将来を見据える指導が進路指導であり、それはキャリア教育と密接な関係を持つ。したがって1年～3年までのすべての生徒に行われるべきものである。教師はあくまでもアドバイザーであるが、そのためには多くの知識を身に付ける必要がある。常に自ら学ぶ姿勢を持ち、様々な生徒の要求に適切に対応できる教師を目指したい。</p>														
改善	<p>・進路指導（キャリア教育）は、全教科全教員がその意味を理解する必要がある。年度初めにしっかりと共通理解を図ることが必要であり、また時に応じ場に応じ、情報交換を密にしながら、正しく生徒を導いていきたい。</p>														
ご意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合いは高度なテクニックが必要だと思う。うまくいけば、多面的な効果が見込まれると思う。教師の皆様のテクニック向上をお願いします。 ・保護者の評価が低いのは、先生方に対する期待の裏返しでもあると思います。これからもなお一層の改善・努力をお願いします。また、不満を持つ生徒の受け止め方にはいろいろな理由があると思います。すべての生徒を満足させることは非常に困難なことはわかりますが、その事実も認識し絶え間ない努力をお願いします。 ・先生方は生徒のために一生懸命になってくれていることを、自分の子どもが3年生になって確信しました。それに対して、生徒が大人になり考える力を高めてくれることを願っています。双方がうまくリンクすれば、若草中学校はさらに良い方向に向かうと思います。 ・学校はやはり授業です。教育のプロフェッショナルとして、自分の力量を高める努力を常に続けてください。 ・生徒や保護者にも評価してもらえよう、先生方の努力に期待します。 ・学び合いの研究をさらに深め、保護者の評価が得られるよう期待しています。 														
①	<table border="1"> <tr> <td>72</td> <td>28</td> <td>100</td> <td>O</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>84</td> <td>16</td> <td>100</td> <td>O</td> <td>A</td> </tr> </table>	72	28	100	O	A	84	16	100	O	A				
72	28	100	O	A											
84	16	100	O	A											
生15	<p>先生方は、生徒の意見をよく聞き、相談に乗ってくれていると思いますか。</p> <table border="1"> <tr> <td>62</td> <td>27</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>89</td> <td>11</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>57</td> <td>28</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>85</td> <td>15</td> <td>A</td> </tr> </table>	62	27	9	2	89	11	A	57	28	12	3	85	15	A
62	27	9	2	89	11	A									
57	28	12	3	85	15	A									
保15	<p>先生方は、相談や悩み事について、適切に応じてくれていると思いますか。</p> <table border="1"> <tr> <td>33</td> <td>48</td> <td>13</td> <td>5</td> <td>82</td> <td>18</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>33</td> <td>52</td> <td>12</td> <td>3</td> <td>85</td> <td>15</td> <td>B</td> </tr> </table>	33	48	13	5	82	18	B	33	52	12	3	85	15	B
33	48	13	5	82	18	B									
33	52	12	3	85	15	B									
生16	<p>学級担任の先生には、気軽に何でも相談できますか。</p> <table border="1"> <tr> <td>54</td> <td>29</td> <td>13</td> <td>4</td> <td>83</td> <td>17</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>47</td> <td>32</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>79</td> <td>21</td> <td>C</td> </tr> </table>	54	29	13	4	83	17	A	47	32	13	8	79	21	C
54	29	13	4	83	17	A									
47	32	13	8	79	21	C									
保16	<p>お子さんは、担任の先生になんでも相談していますか。</p> <table border="1"> <tr> <td>20</td> <td>38</td> <td>24</td> <td>18</td> <td>58</td> <td>42</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>39</td> <td>26</td> <td>12</td> <td>62</td> <td>38</td> <td>C</td> </tr> </table>	20	38	24	18	58	42	C	23	39	26	12	62	38	C
20	38	24	18	58	42	C									
23	39	26	12	62	38	C									
考察	<p>・先生方と生徒の関係性は非常に良好であると感じている。それは普通の教室の様子、授業の様子、様々な活動の様子等から伝わってくる。また現在の落ち着いた生徒の状況は、先生方の指導がしっかりと生徒に行き届いているからに他ならない。ぜひ素晴らしい若草中学校を今後とも維持し、さらに発展させてほしいと心から願うばかりである。 一方、生徒及び保護者からの否定的な評価があることは、そのアンケート結果からもわかる。多くの生徒を担当する担任や学年職員は、もちろんすべて一人一人の生徒に気を配り、細かく対応していることは重々承知している。しかし、生徒や保護者にはまた異なる見方があり、視点が異なれば意見も異なることは当然のことである。この現実をわれわれは自身の成長のために正面から受け止め、常に振り返り、改善していくことが求められる。 また、思春期の生徒がなにからなまでに教師に相談することが本当に最善かという点、これも判断が難しい。いずれにしても、この状況を知り、家庭と連携しながら生徒の指導に生かしていきたい。</p>														

IV 生徒指導・道徳指導について

改善	・これまで築いてきた関係性を、さらに高める努力を継続させること。それがより良い生徒指導につながり、生徒の成長につながり、素晴らしい学校へとつながっていく。						
②	基本的な生活習慣、生活のルールや決まりを身につけさせる指導を行っている。	66 75	31 25	3 3	97 100	3 0	A A
生8	あなたは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつかれていますか。	57 56	31 28	11 12	87 84	13 16	A A
保8	お子さんは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつかれていますか。	45 46	36 39	15 11	81 85	19 15	B B
考察	・一日の生活の正しいリズムが、安定した学校生活につながっていることは言うまでもない。朝、非常に安定した表情で学校に来る生徒の様子を見ると、しっかりと睡眠を取り、正しく朝食を取っていることが容易に想像できる。これは生徒個人の努力もあるが、それ以上に保護者や家庭の力によって規則正しい生活がなされていることの証であろう。このようなきちんとした家庭での対応があるからこそ、学校の生活における基本的な指導も受け入れられていると考えられる。この学校と家庭の連携は生徒の成長にとって欠かすことのできないものであり、今後もさらなる連携と協力関係を築いていきたい。						
改善	・基本的な生活習慣が身に着いていない生徒について、個々の指導が必要である。学習や生活の様子など、様々な切り口から生徒理解を深め、安定した生活ができるよう支援を続けたい。もちろん家庭と連携を取りながら指導を行うことは言うまでもない。						
③	一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っている。	44 69	56 31		100 100	0 0	B A
④	生徒支援委員会（生徒指導部会、ケース会議含む）は、組織的・計画的に運営され、有機的に機能している。	47 53	47 44	6 3	94 97	6 3	B A
考察	・生徒の学校生活の様子を見ると、大変落ち着いた穏やかな生活を送っている。これは一人一人に居場所があり、お互いの関係性が良い状態に保たれていることを表している。もちろん授業も同様であり、これは本校の研究で取り組んでいる”学び合い”によるお互いを認め合う関係が成立していることの証でもある。 また、定期的に開催されている生徒支援委員会（生徒指導部会、ケース会議含む）では、多くの教師の目を見た生徒の小さな変化を共有し、多くの教師が同じ視点で生徒に係わることが出来るため、問題の正しい解決のみならず、未然防止にも大きく役立っている。また、教師間の協働性も構築でき、若草中学校のより良い教育活動に大きく貢献している。						
改善	・大変効果的な生徒支援委員会であるが、計画的に外部人材（専門的知見を持った人材等）を招聘することで、より効果的な指導や支援につながる可能性がある。計画的に実現させたい。						
⑤	道徳の授業を年間計画に沿って実践し、道徳実践力を高めるための指導を授業以外でも日常的に取り組んでいる。	19 22	58 56	19 22	77 78	23 22	C C
生17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。	62 54	29 34	7 8	91 89	9 11	A A
保17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。	27 29	59 58	10 10	86 87	14 13	B B
考察	・道徳教育は、道徳の授業で行われるものと、日常的な指導によって行われるものに二分される。授業については年間計画通りに実施されていない現状があり、それについての課題意識は全職員が持っている。しかし、現実的な学校の状況を見ると、特に学校行事が間近に迫った時などは、背に腹は代えられない的な運用をしていることも事実である。一方、日常的に行われている道徳的な指導は、生徒の心にはしっかりと届いており、それが平素の生徒の落ち着いた生活態度、気持ちよいあいさつにつながっていることは言うまでもない。若草中学校が過去と比較して大変落ち着いた生きを取り戻したことは、このような平素の先生方の努力によるところが大きい。したがって、授業そのものの実施率は課題であるが、それをもって学校全体の道徳教育が課題という事ではない。もちろん新学習指導要領では、道徳は教科化され評価も行われることから、その正確な実施が求められている。我々は道徳に対する意識を改革し、授業としてしっかり行うべく、その取り組みを模索していかなければならない。						
改善	・道徳教育推進教師のリーダーシップの下、道徳授業を計画的に行う。また、研究主任のリーダーシップの下、道徳の授業研究を行い、お互いの参観を通して、より良い道徳授業の有り方を追研していく。						
⑥	不登校やいじめについて、積極的な情報収集を行い、早期発見・早期対応を意識して取り組んでいる。	61 53	35 47	3 3	100 97	0 3	A B
考察	・評価そのものはB評価となり下がっているが、毎週の生徒指導部会、定期的な生徒支援委員会が開催されており、生徒に関する共通理解や情報交換は適切に行われており、大変有意義な取り組みとなっている。また、各学年を中心とした対応や取り組みも迅速で、重大事態と言われるような内容はこれまで確認されていない。結果の改善という観点で見ると、目に見えるようなはつきりとした向上は果たしていないが、不登校やいじめの取り組みは、小さな一つ一つの取り組みの積み重ねであることを考えると、着実に前進がなされていると思われる。今後も継続的な取り組みを続けていきたい。						
改善	・これまで同様に、共通理解・情報交換の場を定期的に設ける。専門的な立場からの指導や助言がもらえるよう、外部講師の招聘を今後考えていきたい。						
1 重	・生徒に対する生徒指導は、生徒の社会性を高めるため日常生活を通して行われるものと思います。したがって、日々粘り強くその意識で取り組んでいただきたい。 ・多感な時期の子どもたちに接することは大変難しいことだと思います。しかし、先生には先生にしかできない仕事がたくさんあ						

意見 り、子ども親もそれに頼っているという事実は変えることはできません。
 ・生徒とのコミュニケーションづくりはできていると思われます。各家庭それぞれの対応は大変ですが、子どもは学校だけでなく家庭生活もあるので、連携して頑張ってください。

V 特別活動について

①	生徒の自主性を育成し、学級や学年、学校生活の充実を図るための指導を行っている。		100	0	B
②	さまざまな行事や活動を仕組み、達成感や成感が満たされる内容を工夫している。		97	3	A
生18	学校の行事や生徒会の行事など、学校の行事は充実していると思いますか。		93	7	A
保18	子供たちが活動する学校の行事は充実していると思いますか。		91	9	B
考察	<p>・教師及び生徒の評価結果が非常に高い項目である。それだけ様々な行事が充実しているという事であり、その取り組み結果に教師や生徒が満足感や成感を抱いているということである。もちろん、そこには教師の非常に大きな努力があることは言うまでもないが、その努力に生徒が一生懸命答えるという、教師と生徒間の信頼関係や人間関係があるからこそ、このような素晴らしい評価につながっていると言えよう。一方保護者の評価であるが、総合評価Bとはなっているが、否定的な評価は極めて少なく、保護者も様々な行事に好感を持っていることは、多くの行事の保護者感想からも明らかである。多くの保護者に見てもらえるような日程や内容の工夫を今後も継続して行っていきたい。</p>				
改善	<p>・日程や内容の工夫、またアナウンスの工夫を行い、多くの保護者の参加を得られる行事にしていきたい。</p>				
③	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。		100	0	A
④	充実した委員会活動や部活動を行うことができるような指導に努めている。		97	3	B
考察	<p>・朝読書は若草中学校の中で習慣として根付いている。教師の指示が無くても時間になると本を出して読み始める姿があり、その間は校舎内はシーンと静まり返っている。非常に落ち着いた時間が流れている。また、様々な本の紹介の工夫や、多くの先生方を巻き込んだ本の紹介など、読書活動に対する興味関心が高まる実践がされており、それも効果的に生徒の心に響いている。 ・充実した部活動は、顧問の努力の上に成り立っているのが中学校の現状である。これはブラックと揶揄される中学校の時間外勤務の大きな課題となっており、今後行政を巻き込んだ対応が必要であろう。このことについては、勤務時間を含めた働き方改革の渦中にあり、個々の学校だけの対応には限界がある。 ・一方、委員会活動についてはさらなる充実が望まれる。自主的な運営や活動のためには、そのための指導が必要であり、ここが若草中学校の大きな課題の一つと言えよう。生徒会執行部を中心に課題の改善を行い、生徒自らが創る生徒会を目指していきたい。</p>				
改善	<p>・朝読書については、生徒も教師も一斉に本を読む時間となるよう、全校体制で取り組みたい。 ・委員会活動については、生徒会執行部と課題意識を共有し、生徒自らが改善に動き出すよう活動を仕組みたい。</p>				
意見	<p>・道徳教育の具体的手法に個人差があっても良いと思いますが、先生同士のコミュニケーションを十分に行い、知識や意識のレベル合わせを事前をお願いします。 ・先生方には多くの負担が求められますが、不断の努力により、保護者、地域からも高く評価され、また他の手本となるような校風を作り上げてください。 ・朝読書は私も経験がありますが、本を読むという事は素晴らしいことです。いろいろなことに役に立ち、世界も広がります。 ・学校行事については、もっと見学する保護者や地域の方が増えれば良いと思います。若草中の行事は最高だと思います。もっともっと開放日があっても良いと思います。 ・これからも情報交換を継続的に行っていくことが、すべてにつながると思います。</p>				

VI 家庭・地域との連

①	地域や保護者からの情報や要望を真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めている。		100	0	A
②	さまざまな学習活動で、地域の施設を利用したり、地域の人々に協力を要請するなど、地域連携を深めている。		75	25	C
考察	<p>・”チーム学校””開かれた教育課程””コミュニティスクール””地域学校協働活動推進員”等、学校は地域の様々な力を使いながら、より多くの手で教育活動を支えていく仕組みが法的に整備されてきている。これは、学校が解決すべき課題が多様化・複雑化し、学校だけの力では解決に苦慮する現状があるからである。今後は、好むと好まざるとにかかわらず、学校はより地域とつながり、学校を中心とした地域コミュニティが形成されていく。もちろんこのことで学校の多忙化に拍車がかかるなら、それは本末転倒であり、お互いが果たすべき役割や分担等は、今後検討されていくべき課題である。現状としては、今あるつながりを大切にしながら、より広範囲に協働できる教育課程を検討していくことである。できることから始め、その結果を検証しながら、より教育的効果が高まる方策を探っていきたい。</p>				
改善	<p>・校務分掌を含めた組織の検討と、地域や外部人材と協働できる教育課程の検討を行う。</p>				
③	学校・学年・学級だより等の諸たよりを定期的に発行し、またホームページを活用して、学校や生徒の様子を積極的に公開している。		88	12	A
生19	学校は、いろんなたよりやホームページなどで、出来事を積極的に連絡し、まだ公開していると思いますか。		87	13	A

連携シート

保19	学校は、各種たよりやホームページなどで、積極的に情報公開を行っていると思いますか。	38	51	8	89	11	B
		38	52	7	91	9	B
考察	<p>・先生方の努力によって、多くの情報が公開されている。各学年で発行されている学年通信、担任が発行している学級通信、保健だより、図書だより、給食だより、生徒指導通信、教頭通信、HPの更新等であり、それぞれ非常に中身のある充実した情報発信である。しかしこれらの通信やたよりを発行するしないは任意であり、また発行するしない、教師の意欲や態度が問われるものでもない。ただし、必要な情報を適切なタイミングで公開することは、学校に課せられた義務であり、このことは常に心掛けなければならない。また、HPの更新も少なからず行っているが、生徒も保護者も閲覧しないことが多く、HPの存在そのものも十分に認知されているとは言い難い。このことが生徒と保護者の評価に現れていると考えられる。</p>						
改善	<p>・今後も、必要な情報は、適切なタイミングで公開を心掛ける。またHPについてはその存在も含めた認知の方策も検討する必要がある。</p>						
ご意見	<p>・先生の仕事も総労働時間で管理する時代になっており、やるべき仕事ありきではない。まず授業を中心として学習活動が主であり、優先順位を明確にしておくべきだと思う。 ・地域に開かれた学校（CS）は若中の理想の姿であると思います。それは、できるものから一つずつ実績を積み重ね達成する息の長いテーマでもあります。これからも相互に連携を密にして理想に近づければ良いと思っています。 ・学校からの便りを出さない生徒がおり、親が困ったという話を聞きました。HPについては、もっと自分の子どもが通う学校のことを知ってもらいたいので、何らかのアピールが必要だと思います。 ・便りを必ず親に見せるという指導も必要かもしれません。</p>						

VII 自身と職場シート

①	学校へ来ることが楽しかった。	33	58	9	91	9	B
		34	47	19	81	19	B
生1	あなたは、毎日元気に楽しく学校に登校していますか。	72	21	5	94	6	A
		63	27	7	90	10	A
保1	お子さんは、毎日元気に学校に通っていますか。	71	26	2	96	4	A
		71	24	4	94	6	A
考察	<p>・生徒が元気に楽しく通ってくる学校がなによりも一番である。しかし、この評価を得るために何か特別なことを行っているのではない。わかりやすい授業を心掛け、学び合いが成立する人間関係を構築し、良いことを認め合い、課題を乗り越える学級集団や学年集団を作り上げているからこそ得られる評価である。その意味では、教師にとって最高の評価であると言っても過言ではない。もちろん同様に保護者の評価も高い。これは毎日の生徒の姿を見ているからこそであり、同様にたいへんありがたい評価である。それに比較して教師評価が低いことが大きな課題である。特に後期に評価が下がっていることを、我々は真摯に受け止めなければならない。それは、生徒と関係のないところでの教師間の問題であり、お互いの信頼関係の構築に警鐘が鳴らされていると受け止めるべきであろう。教師が楽しいと感じる学校。それを目指すことが生徒が楽しいと感じる学校づくりにつながることを我々は心にとどめるべきであろう。</p>						
改善	<p>・教師間の課題を改善すべく取り組みたい。職務に厳しく、そのための協力を惜しまない職場づくり、人間関係づくりを行いたい。</p>						
②	授業や生徒のことなど、必要な時に職場で話ができた。	48	45	6	94	6	B
		47	47	6	94	6	B
③	子供たちに信頼される教師であった。	16	69	16	84	16	B
		25	56	16	81	16	B
④	教師としての力量を高めることができた。	34	56	9	91	9	B
		41	47	13	88	13	B
考察	<p>・自己評価は低くつげがちになる。特に”信頼される教師”の項目が低いが、教頭としてそうは思っていない。むしろ、このような素晴らしい若草中学校を創り上げていることは、生徒からの信頼が無ければ成し得ないことである。そう考えると、先生方はもっと自信を持っていいと思うし、それ相応の教育実践を重ねていると思っている。教師としての力量も同様で、授業も校内研を重ねることにブラッシュアップして素晴らしくなっているし、学級経営や学年経営もしかりである。大変おがましい言い方かもしれないが、すべてにおいて成長していることは自信を持って言うことである。今の生徒の状況を自分の自信として、さらに素晴らしい若草中学校を創り上げていくべく、努力を重ねていきたい。</p>						
改善	<p>・授業改善は、すべての教師に永遠に課される使命である。このことを肝に銘じ、平素の授業や生徒指導に取り組んでいきたい。</p>						
⑤	教師集団として、一つにまとまることができた。	27	58	12	85	15	B
		28	47	22	75	22	C
考察	<p>・①と関連していると言えよう。人と人とは信頼関係でつながる。その信頼関係は、平素の行動の結果によって築かれる。一人一人が自分の課せられた分掌に責任を持ち、継続的に取り組むことが信頼関係構築のため、そして教職員団結のために必要なことである。この結果は真摯に受け止めなければならない。</p>						
改善	<p>・今回の評価結果を真摯に受け止め、一人一人が自分の言動を振り返ること。</p>						

ご意見

- 先生1人に多くの生徒を見る形であり、生徒からすれば、先生と個別に会話ができることは大きな喜びと思う。大変ですが、生徒一人一人のちょっとした会話を大事にしてください。
- ぶれない、人に流されない、自分に自信を持つ。信頼関係において、教師にも生徒にも両方に言えることだと思います。
- 生徒、保護者のA評価を素直に受け止め、教師間の信頼関係を築いてください。

施設設備について	①	学校には、教育活動に必要な施設・設備が整っている	56	34	9	56	44	C	
			13	50	31	6	63	38	C
	生②	学校には、学習するのに必要なもの・場所・道具などが整っていると 思いますか。	65	27	7	92	8	A	
			60	30	7	90	10	A	
	保②	学校には、教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。	27	51	16	6	78	22	C
			35	52	9	3	87	13	B
	考察	<ul style="list-style-type: none"> 施設や設備が古いことは、ある程度は受け入れなければならない現実である。すぐに改善できるものもあれば、長い年月を要する場合もある。もちろん、改善のための要求は継続していくが、その間も時間は流れていく。人間の知恵で克服、改善できるよう取り組むことが必要であろう。 							
	改善	<ul style="list-style-type: none"> それぞれが、それぞれの分掌での必要物品の把握をし、順次整備していくことが望まれる。その際の情報交換を密にしていくことが必要である。 							
	ご意見	<ul style="list-style-type: none"> 建物が古いからとあきらめることなく、日常生活に直接関係する設備、備品から、分割してでも改善していく努力を継続願います。 いつ何があってもおかしくないところは、事故防止の観点からすぐにも改善すべきだと思います。必要な者については、最低限のものがそろっていれば、あとは工夫で乗り越えられると思います。 							